

# 花咲くまちに笑顔咲く

花や緑にあふれた癒やしの景観づくりを進める菊池市。花や緑がまちにどんな効果をもたらしているのでしょうか。花に関わる人たちの声を聞きました。

【問い合わせ先】都市整備課都市整備係 ☎0968(25)7242

コンテストきっかけに  
花づくりの裾野を広げたい

「花のまちづくりガーデニングコンテスト2017」の結果が発表されました。初めて開催した昨年度は地震の影響で応募が少なかったものの、本年度は31点が集まる盛況となりました。イベントを担当する都市整備課は「コンテストを通してガーデニングを始める人が増えてほしい。継続的に開催することで、花でいっぱいになれば」と狙いを説明します。作品は4月から6月にかけて募集。市役所本庁舎に写真を

展示し、市民による投票で受賞者を決定しました。9月8日には受賞者4人と3団体の計7作品を表彰。江頭実市長は「どれも素晴らしい作品ばかり。花と地域への深い愛情を感じます。花のまちづくりが進めば癒やしの空間が広がり、さらに人が集まる地域となるでしょう。この取り組みが広がることを願っています」と話しました。コンテストは来年も開催予定。同課は「応募作品はどの季節でも大丈夫です。来年のコンテストのために、花が咲いたタイミングで写真を撮っておいてもらえたら」と呼びかけています。

花のまちづくり  
ガーデニング  
コンテスト  
2017  
受賞作品  
(敬称略)



個人部門 金賞  
武生美穂(下赤星)



企業部門 金賞  
舞美容室(栄町)



グループ部門 金賞  
深川フラワーズ(深川)



個人部門 銀賞  
田中康男(出分)



企業部門 銀賞  
有限会社クドウ工業(亘)



グループ部門 銀賞  
菊池美容組合(菊池公園)



特別賞 市長特別賞  
高森美鈴(打越)



1

深川地区で花壇の世話や美化活動を続けて19年。もともとは熊本国体を見据え、平成10年に活動を開始しました。当時の自治会長だった角田孝信さん(深川)は「まちが少しでもきれいなればと思って呼びかけた」と振り返ります。深川のバス停前にある花壇では、季節ごとにさまざまな花を育成。菊之池小学校の手伝いや、他地区へのアドバイザーなど、活動は多岐にわたります。



1\_気心知れた仲間との活動は元気の源 2\_パニージーの苗植えをみんなで用意 3\_一つ一つのポットの土を丁寧にならす

## 会の活動が健康の秘訣

「グループ部門」金賞

深川フラワーズ



深川フラワーズ代表  
原田秋彦さん  
(深川)

17人。活動を何よりの楽しみにしている会員も多いそう。「土をいじっていると、心が和むんだよね。定期的が集まることで交流も増えるし、みんなの気持ちも元気になる」と会長の原田秋彦さん。地域住民の生きがいとして、これからも地道に活動を続けます。



「個人部門」金賞

## 菊池で叶った念願の庭造り

東京で働いていた夫の孝一さんが7年前に退職。32年ぶりに菊池へ戻った美穂さんは「都会の庭は猫の額ほどの狭さ。菊池に来て、長年の夢だった庭造りをようやく始められたんです」と話します。



武生美穂さん  
(下赤星)

7年かけて夫婦で地道に作り上げた自慢の庭。美穂さんは花や木を選び、庭全体のデザインを計画。日曜大工が得意な孝一さんは、木製テーブルの工作や力仕事を担当しました。

二人のこだわりは、焦らず手作りで楽しむこと。「植物は生き物。成長した姿を考え、植え過ぎないように気をつけました」と美穂さん。「ガーデニング仲間が増えて楽しいです。庭造りをする人が各地に増え、菊池が花でいっぱいになるとうれしいですね」と喜びました。



1



3

1\_花に感謝しながら、丁寧に世話をする 2\_テーブルは孝一さんの手作り。庭で趣味のギターを演奏することも 3\_愛犬のあなんちゃん

「企業部門」金賞

舞美容室

## 時間を忘れるほど楽しい

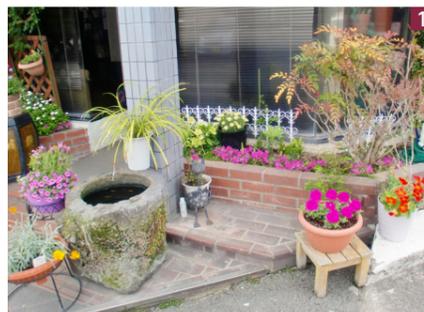
「お客さんの喜ぶ顔がうれしくて」。姉が経営する美容室を手伝い始めた約10年前から、店舗の前でガーデニングを開始。「花を世話していると、通行人から話しかけられるんです。いろんな人が見られるから、ますますヤル気も出ちゃいます」とほほ笑みます。

後方のバラはハートの形に配置。バラは病気になるやすいため、虫の対策や消毒など毎日怠らず、手塩にかけて育て上げました。前面の鉢植え



舞美容室  
井野加代子さん  
(大琳寺)

は季節ごとに交換し、色が偏らないよう工夫。「お花屋さんで、いろんな花を選ぶ時間はとても幸せな気分になります」と話します。「花の世話は、時間を忘れるぐらい楽しいです。自宅のガーデニングも頑張りたいですね」



1



2

1\_美容室の周囲は鉢植えで賑やかに彩られている 2\_花に優しく語りかけながら水やり 3\_店先を飾る季節の花



「個人部門」銀賞

## 庭作りは人生の癒やし

8年前から、夫婦で協力して育てています。約200種類の植物は配置図を描き記録。お金をかけず、身近な花で素敵な空間をつくるようにしています。花を育てると、自分たちの心も癒やされるんです。



田中康男さん  
(出分)

「企業部門」銀賞

有限会社グドウ工業

## 会社のメンバーで育てた花

従業員8人で協力し、花や木の世話をしています。小さい苗が大きく育ち、きれいな花を咲かせる姿を見ると幸せな気分になりますね。通りすがりに声をかけてくれる人も多いので、これからも可愛がって育てます。



取締役  
土本美代子さん  
(巨)

「グループ部門」銀賞

菊池美容組合

## 花いっぱい公園を楽しんで

組合員と地域住民が協力しながら、菊池公園で花の世話をしています。遠方から来る人も多い場所なので、きれいな花を見て菊池を楽しんでくれれば。みんなが喜ぶ姿を見ると、やりがいを感じます。



支部長  
緒方和代さん  
(栄町)

市長特別賞

## 自然体で花を楽しむ

退職後にガーデニングを始めました。楽しむコツは、負担を感じずに取り組むこと。時間の合間に世話をし、暑いときは無理せず休憩します。自分の庭にチョウが舞う光景を見ると、とてもうれしいですね。



高森美鈴さん  
(打越)



## 趣味の話で交流を深めました

表彰式で顔を合わせた受賞者たち。ガーデニングの質問や各自のこだわりを話すなど、共通の趣味を持った者同士で話に花を咲かせました。受賞作品の写真は10月6日(金)~20日(金)まで、御所通りで展示します。



## 受賞者インタビュー

ガーデニングにかける思いは、人それぞれ。受賞者の喜びの声を聞きました。



## 参加者募集！ 寄せ植え講習会 ～初心者向け～

好きな花を選び、自分の手で寄せ植えをしてみませんか。「お花を育てたい」「ガーデニングをしてみたいけど何から始めていいかわからない」など、ガーデニングに興味がある人大歓迎です。専門の講師から基礎的な内容を学べます。

自分で植えた花は、いっそう愛らしく感じられます。持って帰って、みんなが見えるところに飾りましょう。

### 旭志地域

とき → 11月9日(木) 午後7時～  
ところ → 旭志公民館

### 七城地域

とき → 11月16日(木) 午後7時～  
ところ → 七城公民館

講師 檜枝末歩さん  
(宮村明花園 グリーンアドバイザー)

対象 市内に在住か勤務している人

定員 先着15人

参加費 2,000円(材料代)

申込方法 電話かメールで申し込んでください。

### 申し込み・問い合わせ先

都市整備課都市整備係  
☎ 0968(25)7242  
✉ toshiseibi@city.kikuchi.lg.jp

中級者向けの講習は来年2月に菊池地域と泗水地域で開催予定です。



1\_講師にアドバイスを  
受けながら寄せ植えを  
体験 2\_彩り豊かな寄  
せ植えの鉢 3\_ベンチや  
緑で癒やしの空間を実  
現した御所通りの店舗



### 花とふれあうことで 健康な人生を送る

寄せ植え講座で講師を務める宮村明花園の檜枝末歩さん(片角)は「ガーデニングは手や頭を使い、花の匂いで嗅覚も楽しめます。五感を使う趣味なので、健康にも良いんですよ」と利点を説明します。

熱中しています。「子どもの頃から花が大好き。戦時中は花がなくなってしまうので、普通に育てられることに感謝しています。一生懸命お世話しても、うまく咲かないこともあります。でも、頬ずりしたいぐらい花が好きだから続けられます。大切な生きがいです」

檜枝さんは「ガーデニングは高齢になっても楽しめます。退職をきっかけに始める人も多いです。花をきっかけに健康的な人生を送ってもらえたらうれしいですね」と目を細めました。



花や緑でにぎわう街並み。  
花を生きがいにしている人。  
ガーデニングは、まちや人を  
豊かにしています。

### 花や緑で彩る街並み。 もてなしの心でまちづくり

市街地に癒やしの空間をつくる「森の中のまちプロジェクト」を進める本市。景観づくりを進める御所通りでは、2年前に東京大学アジア生物資源環境研究センターの堀繁教授を呼び、勉強会を開催しました。都市景観の専門家である堀教授は、店先に花の寄せ植えを置き、ベンチの設置やのれんを掲げるなど、人を迎え入れるまちづくりの演出を助言。各店舗が趣向を凝らした店先を実現しています。

さらに、地域おこし協力隊「癒しの里コーディネーター」として活動する一ノ瀬萌子さんは、個人単位で緑や花を増やしても

らおうと市民を対象に寄せ植え講習会を企画。「ガーデニングや鉢植えに興味があっても、始めるきっかけがない人も多かった。講習会を機に、緑を庭先に飾る人が増えてくれたら」と思いを語ります。

地域おこし協力隊  
癒しの里コーディネーター  
一ノ瀬萌子さん



秋の菊池を花で彩る人たち。伝統文化を守り続ける思いを聞いてみました。

### 菊まつり推進委員会



中村祐幸さん  
(前川)



緒方正俊副会長  
(山崎)



橋本勉会長  
(上西寺)

### 使命感を持って 伝統を守り続ける

市の花である菊を使った祭典「菊人形・菊まつり」は、30年以上続く秋の風物詩です。菊まつり推進委員会の橋本勉会長は「菊の栽培は一年を通して大変。非常に手がかかるけど、伝統を守る使命感を持ち取り組んでいます。パッと花が開いた時の喜びは言い



1.2\_手塩にかけて菊を育てる 3\_これまでの菊人形・菊まつりの作品

表せないよ」と頬を緩めます。「菊池の祭典を支えている役割に、やりがいを感じます。菊を人に見てもらおうのがうれしい」と話すのは緒方正俊副会長。会員の中村祐幸さんは「79歳から始めて7年目。大変だけど、生きがいです」と続けます。

橋本会長は「愛情を注いだ菊の花を、菊池の人に見てもらいたい。ぜひご来場ください」と呼びかけました。

### 一緒に菊人形を作りませんか

菊まつり推進委員会では会員を募集しています。  
※菊人形・菊まつりの詳細は34ページをご覧ください。

問い合わせ先 商工観光課観光振係  
☎ 0968(25)7223